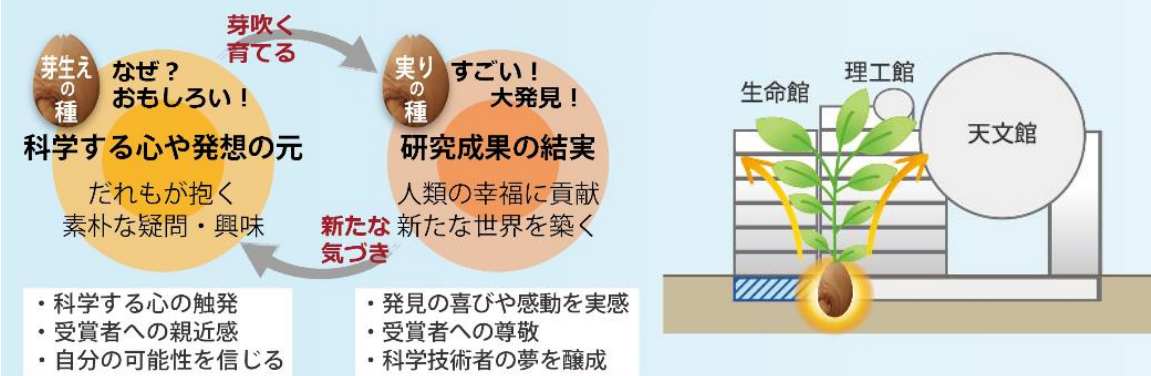


1 施設の目的・コンセプト

- 愛知・名古屋ゆかりのノーベル賞受賞者の業績などを分かりやすく伝えることにより、次世代の科学技術を担う人材の育成や当地の先進性・魅力の発信を図る。
- 特に子どもたちを対象に、当地ゆかりの受賞者の「科学する心や発想の元」「研究成果の結実」を伝えることで、科学技術に対する好奇心や探求心、夢を触発する展示を展開する。
- 科学館内に点在するノーベル賞受賞研究分野関連の既存展示において、ノーベル賞に関連する展示であることを認識させるサインを新設するなど、顕彰施設を起点とし、科学館全館との連携を図ることにより、受賞者顕彰の趣旨の最大化を図る。



2 整備場所・規模

整備場所：名古屋市科学館サイエンスホール（生命館地下2階）

整備面積：約720㎡（うち展示室内（ゾーン1～ゾーン3）：約300㎡）

3 施設で顕彰する受賞者

- 県内の大学・研究機関に在籍実績のある7名を対象とする。
- 展示は、5つの受賞テーマ別に展開することを基本とする。

氏名	受賞年	受賞テーマ	在籍実績機関
野依 良治	2001年化学賞	①キラル触媒による不斉反応の研究	名古屋大
小林 誠	2008年物理学賞	②C P 対称性の破れの起源の発見	名古屋大
益川 敏英	2008年物理学賞		名古屋大
下村 脩	2008年化学賞	③緑色蛍光タンパク質の発見	名古屋大
赤崎 勇	2014年物理学賞	④青色発光ダイオードの発明	名城大、名古屋大
天野 浩	2014年物理学賞		名古屋大、名城大
大隅 良典	2016年生理学・医学賞	⑤オートファジーの仕組みの解明	基礎生物学研究所

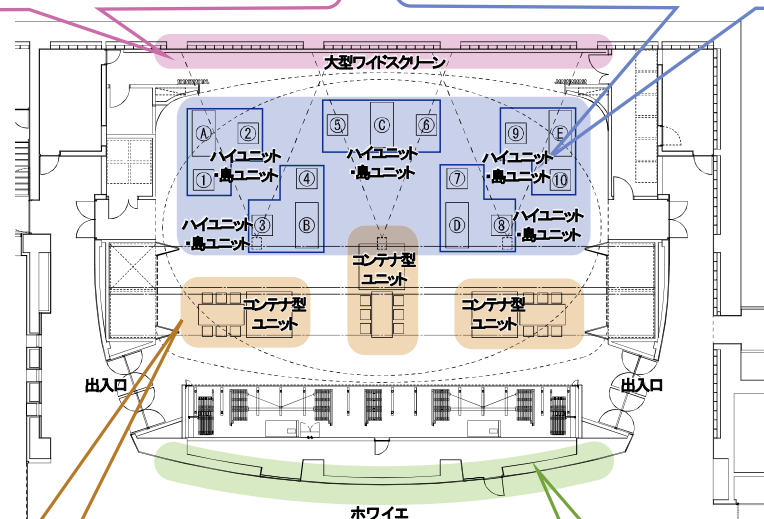
4 展示ゾーンの概要・レイアウト

ゾーン1 大型映像展示

受賞者の偉大さや受賞研究の内容・成果などを、直感的かつ分かりやすく伝える壁一面に展開するダイナミックな映像展示。

ゾーン2 受賞者ユニット展示

受賞者の研究者人生や研究内容、研究成果の社会的な貢献を学ぶことが出来るストーリー性や体験性のある展示。



ゾーン3 体験交流展示

受賞研究をテーマとした実験やノーベルウィークの疑似体験など、体験や交流の場を提供する展示。

ゾーン4 ノーベル賞解説展示

ノーベル賞の概要や著名な受賞者を紹介する顕彰施設のガイダンス展示。

【施設内（ゾーン1～3）のイメージ図】





## 5 各ゾーンでの展示内容のイメージ

### (1) 大型映像展示（ゾーン1）

- 本編映像（4～5分程度）と、待機映像（数十分程度）で構成。
- 壁一面に展開するダイナミックな映像により、受賞者の偉大さや受賞研究の内容・成果などを、直感的かつ分かりやすく伝えることで、科学や技術に興味・関心を持つきっかけとなる展示空間を演出。
- 本編映像は、目玉展示のひとつとして、上映時に観覧者の注目を集めるような演出を施設内全体で展開するよう検討（照明・音響などで上映直前の盛り上げを行う、上映中に映像内容に関連したユニット展示にスポットを当てる等）。
- 待機映像は、ユニット展示などの観覧を促す時間とするため、受賞者たちの言葉やノーベル賞・受賞者にまつわる逸話など、興味のある人が気軽に楽しめる映像を検討。

#### <タイムスケジュール>



#### <イメージ>

##### 本編映像 1

受賞者たちがどのようなことに好奇心や探求心を持ち、偉大なる発見・発明に至ったか、また、その受賞研究が愛知・名古屋から生み出され、いかに世界に貢献しているかをダイナミックに表現。

##### プロローグ：ノーベル賞とその歴史

ノーベル賞の歴史や世界の有名な受賞者たちの紹介を入口に、愛知・名古屋ゆかりの受賞者紹介に導く。



##### 展開①：不思議に思う気持ちと研究過程

受賞者と科学との出会いや、好奇心や探究心、発想の元があふれ出し、スクリーンを埋め尽くすように展開。



##### 展開②：研究成果の発展と人類への貢献

受賞した研究成果が世界に貢献している事例を紹介。また、さらなる発展に寄与していく可能性も表現。



##### エピローグ：愛知・名古屋から世界へ

それらの研究が愛知・名古屋から生み出され、世界中に影響を与えていることを表現。



##### 本編映像 2

ノーベル賞受賞の電話連絡から始まり、渡航準備、渡航してからのイベント、クライマックスである授賞式・晩さん

ノーベルウィーク街歩き

会まで、受賞を受けた一連の出来事を追体験。

- |                   |  |
|-------------------|--|
| ①受賞決定から授賞式出発まで    | 受賞決定の電話から、全国を包む喜びの声、授賞式への旅立ちなどを再現。                             |
| ②ストックホルム到着から授賞式まで | 受賞者の恒例行事（ノーベルカフェでの椅子へのサイン、御用達仕立て屋での燕尾服選びなど）など、ノーベルウィーク関連行事を再現。 |
| ③授賞式と晩さん会         | 授賞式、記念スピーチ、晩さん会というメイン行事を再現                                     |



## (2) 受賞者ユニット展示 (ゾーン2)

- 5つの受賞テーマごとに展示を展開。各テーマは「ハイユニット×1点」+「島ユニット×2点」で構成。
- ハイユニットにおいて「研究者人生を紹介し、受賞者への親しみを感じられるストーリー立てた展示」を行うとともに、島ユニットにおいて「受賞研究の一端に楽しみながら触れることができる体験展示」を展開。
- 「体験展示」は、「①基礎・基本（受賞研究分野の基礎的な原理）」、「②受賞・過程（受賞研究の内容）」、「③発展・貢献（研究成果の社会的な貢献）」の3つの視点から10程度のアイデアを整理。そのうち3～5程度を、設計段階において、ハイユニットと島ユニットで具体化する。
- ユニットの具体化に当たっては、双方向性のある体験展示を実現する情報通信技術（タッチパネル式デジタルサイネージや床面投影プロジェクター等）などの活用も検討。

### 【ハイユニット】

ユニット単体で、受賞者の研究者人生や受賞研究を把握できる展示を構成  
W2m×H2.4m×D1m



### 【島ユニット】

体験型の展示であり、内容に応じて様々なアレンジが可能  
W1m×H1m×D1m (基本サイズ)





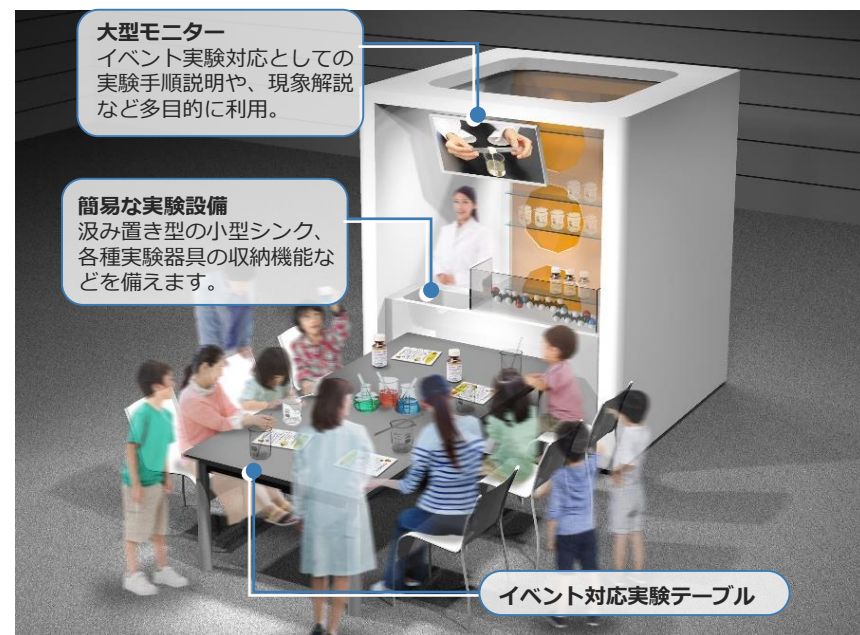
### (3) 体験交流展示 (ゾーン3)

- 受賞研究をテーマとした実験やノーベルウィークの疑似体験など、受賞者やノーベル賞を多様な切り口でとらえた展示やプログラムを実施。
- 幅広い来館者が楽しめる体験や交流の場を提供するとともに、可変性のある展示や話題性のあるプログラムによってリピーター利用を促す。
- コンテナ型のユニットを3台設置 (W2m×H2.4m×D2m) し、設計段階において、適切な内容を具体化していく。

#### <イメージ>

##### ① 実験コンテナ

- 人員を配置し、受賞研究をテーマとした公開実験などを実施。
- 人員不在時には、実験映像を上映。ロボットによる案内なども想定。



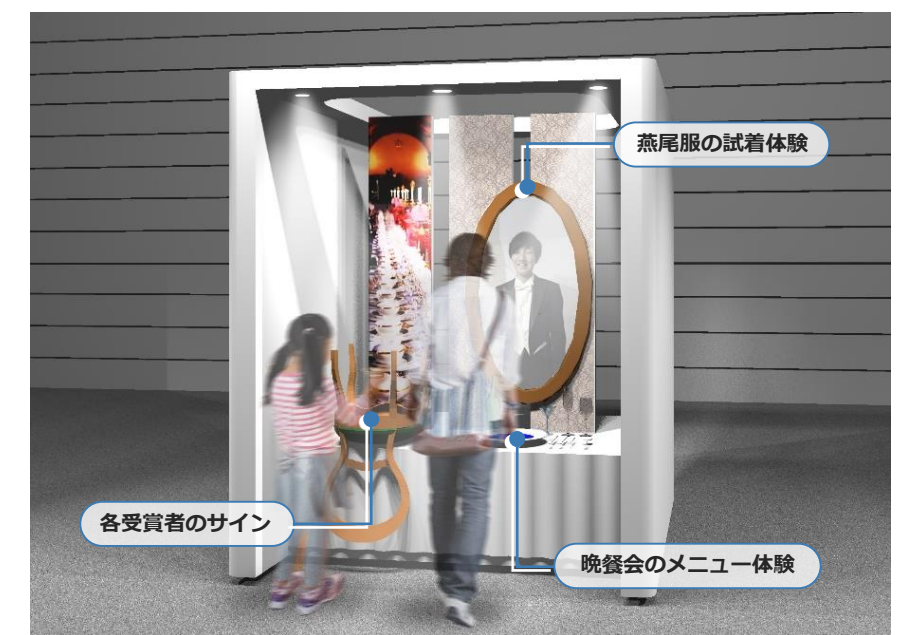
##### ② 企画展示コンテナ

- 受賞者等から借り受けた貴重な品々の期間限定展示や、毎年のノーベル賞受賞研究の企画展など、多目的に利用。



##### ③ ノーベルウィーク体験コンテナ

- 映像技術を活用し、ノーベルカフェの椅子へのサインや、燕尾服の試着、晩さん会での料理の紹介など、観覧者が疑似的に体験できる展示を実施。



### (4) ノーベル賞解説展示 (ゾーン4)

- ノーベル賞の基礎知識や著名な受賞者・研究成果を解説。
- ホワイエを活用して展開し、施設のガイダンスの機能を担う。

#### <コンテンツのイメージ>

##### ① ノーベル賞の基礎知識

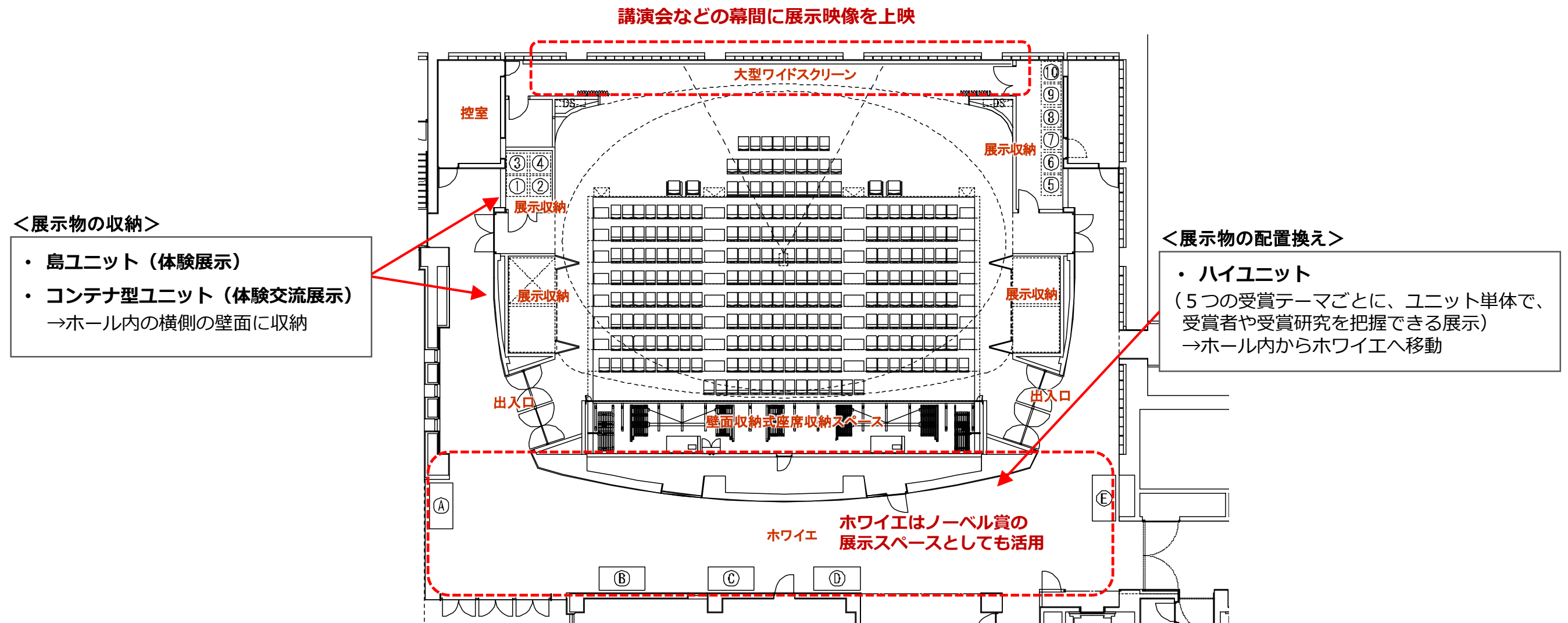
- ノーベル氏の伝記、賞の設立経緯・理念や種類・選考基準 など

##### ② 受賞者の総覧

- 自然科学3賞の受賞者を年表形式で掲載
- 近年、愛知・名古屋ゆかりの受賞者が際立って多いことを解説
- 映像モニターを設置し、注目すべき受賞者や研究成果を紹介 など

## 6 ホール機能の確保

- 可動式展示ユニットと壁面収納式座席を活用することにより、科学技術関係の講演会などを行うホールとしての機能（250席程度）も確保。
- ホール使用時は、講演会などの開会前や幕間、閉会後の時間帯を活用し、ノーベル賞の展示映像を上映することにより、講演会参加者などにも愛知・名古屋ゆかりの受賞者たちをアピールしていくことを検討。
- また、ゾーン2に展示するハイユニットをホワイエ（ゾーン4）に移動し、ノーベル賞関係の展示スペースとして活用。
- さらに、新たにノーベル賞関係の講演会などの開催も検討。



## 7 概算整備費・整備スケジュール

- 概算整備費は9億円程度。
- 2018年度に設計を行い、2019年度から施工。2020年度内のオープンを目指す。  
※整備費・オープン時期は2018年度の設計で精査。